

青森県はDXでもっと面白くなる

青森DX

令和8年度

「地元のプロから学ぶ
デジタル×キャリア体験講座」

講座メニュー表

令和8年4月27日現在


青森県総合政策部DX推進課

目 次

No.	事業者名（五十音順）	本社所在地（県内拠点）	ページ数
1	株式会社アイティコワーク	八戸市	1
2	ITラボ株式会社	弘前市	5
3	ARUDO	北津軽郡鶴田町	10
4	株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー	東京都（青森エリア統括部）	16
5	株式会社Q'sfix	東京都（青森市）	22
6	ディーシーティーデザイン	青森市	24
7	株式会社デーリー東北新聞社	八戸市	26
8	株式会社DRAGON AGENCY	愛知県（青森市）	29
9	株式会社ビーコース	十和田市	35
10	株式会社ビジネスサービス	青森市	40

(様式1) 企業プロフィールシート

株式会社アイティコワーク

会社概要			
設立年	2012 年		
従業員数	20 名		
本社所在地	青森県八戸市江陽 5 丁目 15-12		
支店・営業所等			
公式サイト	https://www.itcowork.co.jp/		
事業内容			
<ul style="list-style-type: none">・システム開発（スマートフォンアプリや Web システム）・地元に根ざした自社サービス開発（ごみ収集アプリ）・高等学校における教育支援			
実績（任意）			
内容	<ul style="list-style-type: none">・県立高校にて情報学科の出前授業を年 6 回程度担当（八戸商業高校、三沢商業高校）（2018 年から継続）・広域の部活として市内中高生が参加する「八戸市こどもまちなか IT 部」を運営（2025 年度から継続）		
URL	https://www.itcowork.co.jp/education/hachinohe-ch-20260206/ https://komachi-lab.com/		
企業PR			
<p>青森県八戸市を拠点に、フルリモートでシステム開発を行う IT 企業です。2012 年の創業以来、高卒エンジニアの育成と地域貢献を両立してきました。</p> <p>現在、社員 20 名のうち半数以上が地元高卒採用・自社育成のエンジニアです。GitHub Copilot や Claude Code などの生成 AI ツールを実際の業務に導入し、「人と AI が協働する開発現場」を日々実践しています。</p> <p>青森県内 10 自治体で活用されるごみ収集アプリの開発・運営、八戸商業高校・三沢商業高校での出前授業、八戸市こどもまちなか IT 部の運営など、地域のデジタル人材育成に長年取り組んでいます。</p> <p>「地方にいながら世界に羽ばたけるエンジニアを育てる」という信念のもと、高校生の皆さんに IT の面白さと可能性を伝えます。</p>			
担当者連絡先			
担当者	岡本		
電話	090-4428-4033	メール	okamoto@itcowork.co.jp

(様式2) 講座メニュー

株式会社アイティコワーク

授業メニュー名	生成 AI と一緒に働くー現役エンジニアが語る AI 時代の仕事術	
対象学年	高校 1 ～ 3 年生	
想定する受講人数	講演形式、授業形式など学校の意向に合わせて対応致します	
想定受講者スキルレベル	PC 基本操作ができる生徒（ブラウザ操作経験者歓迎）	
授業時間（目安）	2 コマ以上が望ましいですが、学校の意向に合わせてます	
授業形式	対面講義 + 簡単なハンズオン	
授業内容	<p>【前半：生成 AI を知る】</p> <ul style="list-style-type: none">・生成 AI とは何かーChatGPT・GitHub Copilot・Claude Code の違いと特徴・生成 AI でできること・できないこと・情報の正確性・著作権・プライバシーなど注意すべき点・フェイク情報・AI 生成コンテンツの見分け方 <p>【後半：IT 企業のリアル】</p> <ul style="list-style-type: none">・現役エンジニアによる生成 AI 活用デモ（実際の開発現場での使い方）・八戸を拠点にフルリモートで東京案件を担う働き方の紹介・高卒で IT エンジニアになった先輩社員によるキャリア紹介・IT 業界の仕事内容・給与・将来性について	
目標・到達スキル	<ul style="list-style-type: none">・生成 AI の基本的な仕組みと正しい使い方が理解できる・生成 AI を使う際のリスクと注意点が身につく・IT 企業の仕事内容・働き方の具体的なイメージが持てる・地元八戸でも IT 業界で活躍できることがわかる・進路選択の選択肢として IT 業界を具体的に検討できる	
使用教材・ツール	プレゼン資料、PC（ブラウザ接続）、ChatGPT または類似 AI サービス	
学校側準備物	講師用	プロジェクター（任意）、講師用 PC 接続環境
	生徒用	PC またはタブレット（ブラウザ対応）
対応可能な地域	三八地域	
特記事項	<ul style="list-style-type: none">・高卒入社のエンジニアを登壇者として起用し、進路選択のリアルな話を提供します・学校の授業計画に合わせて内容の一部調整が可能です・複数回の実施にも対応しています	

(様式2) 講座メニュー

株式会社アイティコワーク

授業メニュー名	青森から世界へー地方 IT 企業のリアルな仕事と働き方	
対象学年	高校1～3年生	
想定する受講人数	講演形式、授業形式など学校の意向に合わせて対応致します	
想定受講者スキルレベル	PC 基本操作ができる生徒（ブラウザ操作経験者歓迎）	
授業時間（目安）	2コマ以上が望ましいですが、学校の意向に合わせてます	
授業形式	対面講義+簡単なハンズオン	
授業内容	<p>【IT 企業の仕事ってどんなこと？】</p> <ul style="list-style-type: none">・システム開発・アプリ開発・インフラ・AI 活用など職種の紹介・フルリモートで東京企業案件を担う八戸発の IT 企業の働き方・IT 業界の給与・将来性・キャリアパスについて <p>【高卒エンジニアの先輩から直接聞く】</p> <ul style="list-style-type: none">・地元高校から IT エンジニアになった先輩社員によるリアルトーク・入社後どんなスキルを身につけたか・仕事のやりがいは何か・進路選択で迷っている人へのメッセージ <p>【質疑応答】</p> <p>IT 業界・IT 企業への就職について自由に質問できる時間</p>	
目標・到達スキル	<ul style="list-style-type: none">・IT 企業の具体的な仕事内容・職種が理解できる・地元八戸でも IT 業界で活躍できるイメージが持てる・高卒で IT エンジニアになるリアルな道筋がわかる・IT 業界を進路選択の選択肢として具体的に検討できる	
使用教材・ツール	プレゼン資料、登壇者（現役エンジニア・高卒入社の先輩社員）	
学校側準備物	講師用	プロジェクター（任意）、講師用 PC 接続環境
	生徒用	PC またはタブレット（ブラウザ対応）
対応可能な地域	三八地域	
特記事項	<ul style="list-style-type: none">・高卒入社のエンジニアが登壇し、進路選択のリアルな体験を語ります・IT 業界への漠然とした不安を解消することを重視した構成です・質疑応答の時間を多めに取ることも可能です	

(様式2) 講座メニュー

株式会社アイティコワーク

授業メニュー名	情報を見極める力—AI時代のデジタルリテラシー入門	
対象学年	高校1～3年生	
想定する受講人数	講演形式、授業形式など学校の意向に合わせて対応致します	
想定受講者スキルレベル	PC基本操作ができる生徒（ブラウザ操作経験者歓迎）	
授業時間（目安）	2コマ以上が望ましいですが、学校の意向に合わせてます	
授業形式	対面講義+簡単なハンズオン	
授業内容	<p>【AI時代の情報リテラシー】</p> <ul style="list-style-type: none">・生成AIが作った文章・画像・動画の見分け方・フェイクニュース・ディープフェイクの実例と対処法・SNSで情報を発信する際の注意点（著作権・プライバシー・炎上リスク）・情報の出典・一次情報を確認する習慣の大切さ <p>【デジタルツールの正しい使い方】</p> <ul style="list-style-type: none">・生成AIを使う際のルールと注意点（個人情報・著作権）・WEBページや資料での効果的な情報発信の方法・プレゼンテーションにおけるデジタルツール活用術 <p>【まとめ・質疑応答】</p>	
目標・到達スキル	<ul style="list-style-type: none">・AI生成コンテンツを含む情報の信頼性を判断する力が身につく・SNS・デジタルツールを使う際のリスクを理解できる・生成AIを安全・適切に使うためのルールが理解できる	
使用教材・ツール	プレゼン資料、フェイクニュース・AI生成コンテンツの実例資料	
学校側準備物	講師用	プロジェクター（任意）、講師用PC接続環境
	生徒用	PCまたはタブレット（ブラウザ対応）
対応可能な地域	三八地域	
特記事項	<ul style="list-style-type: none">・情報活用能力・メディアリテラシーの授業と組み合わせることも可能です・実際のフェイクニュース事例やAI生成画像を使った実例解説を行います・学校側のニーズに合わせてSNS安全利用・著作権などテーマの重点調整が可能です	

(様式1) 企業プロフィールシート

ITラボ株式会社

会社概要			
設立年	2011.01.31		
従業員数	3名		
本社所在地	青森県弘前市城東中央2-1-18		
支店・営業所等			
公式サイト	https://it-labonet.com		
事業内容			
<ul style="list-style-type: none">・WEBサイト作成及びWEBシステム開発・ネットワーク構築及びサーバー構築・保守・WEBアプリケーション開発、提供・生成AIを活用した業務効率化ツールの開発、提供・ITセミナー、講習会の開催			
実績（任意）			
内容	県内IT企業による高等学校向け出前授業を数年間受託 青森県高等学校商業教育研究会分科会にてAI活用に関する講師担当		
URL	https://it-labonet.com		
企業PR			
WEBサイト、システム開発、サーバー構築等を中心にIT関連業務を全般におこなっております。 近年では、DX化に伴う業務改善等からのコンサル業務依頼も多数きております。			写真
担当者連絡先			
担当者	新山 則和		
電話	0172-26-6211	メール	info@it-labonet.com

(様式2) 講座メニュー

ITラボ株式会社

授業メニュー名	生成AIの最新活用	
対象学年	1年生～3年生	
想定する受講人数	40名	
想定受講者スキルレベル	事前に打合せさせていただき、レベルに合わせた内容で行います。	
授業時間(目安)	3コマ	
授業形式	対面式	
授業内容	<ul style="list-style-type: none">最新のAI情報及び活用例生成AIを体験、活用(学生のスキルによっては、プログラム生成)学習としてのAI活用と企業におけるAI活用の特性と違い	
目標・到達スキル	<ul style="list-style-type: none">数種類の生成AIから目的にあったAI活用をイメージする学習としてのAI知識ではなく、仕事をする上でのAI活用をイメージする	
使用教材・ツール	・copilot、Gemini、Google AI Studio等	
学校側準備物	講師用	・インターネット回線及びスクリーン、プロジェクター
	生徒用	・操作用PC
対応可能な地域	・青森県全域	
特記事項	・コマ数に関しても、調整可能です。お気軽にご相談ください。	

(様式2) 講座メニュー

ITラボ株式会社

授業メニュー名	WEB情報配信と情報デザイン	
対象学年	1年生～3年生	
想定する受講人数	40名	
想定受講者スキルレベル	事前に打合せさせていただき、レベルに合わせた内容で行います。	
授業時間(目安)	3コマ	
授業形式	対面式	
授業内容	<ul style="list-style-type: none">・実践的な情報デザインのアプローチ・簡単なWEB情報配信方法を解説・マーケティングと情報デザイン及び情報配信	
目標・到達スキル	<ul style="list-style-type: none">・情報デザインを具体的に捉える事ができる。・情報配信を具体的に仕事として捉える事ができる	
使用教材・ツール	<ul style="list-style-type: none">・テキストエディタ、等	
学校側準備物	講師用	<ul style="list-style-type: none">・インターネット回線及びスクリーン、プロジェクター
	生徒用	<ul style="list-style-type: none">・操作用PC
対応可能な地域	<ul style="list-style-type: none">・青森県全域	
特記事項	<ul style="list-style-type: none">・コマ数に関しても、調整可能です。お気軽にご相談ください。	

(様式2) 講座メニュー

ITラボ株式会社

授業メニュー名	情報処理系の教科書内容を実社会に落とし込んでみよう	
対象学年	1年生～3年生	
想定する受講人数	40名	
想定受講者スキルレベル	事前に打合せさせていただき、レベルに合わせた内容で行います。	
授業時間(目安)	3コマ	
授業形式	対面式	
授業内容	<ul style="list-style-type: none">・教科書内で習う各項目を実社会でどのように活用されているか・習った内容をさらにスキルアップさせるには?又、どんな資格が仕事に有効か。	
目標・到達スキル	<ul style="list-style-type: none">・習う内容を実践として活用する工夫を身につける・目的をもった資格取得や知識取得を身につける	
使用教材・ツール	<ul style="list-style-type: none">・テキストエディタ、等	
学校側準備物	講師用	<ul style="list-style-type: none">・インターネット回線及びスクリーン、プロジェクター
	生徒用	<ul style="list-style-type: none">・操作用PC
対応可能な地域	<ul style="list-style-type: none">・青森県全域	
特記事項	<ul style="list-style-type: none">・コマ数に関しても、調整可能です。お気軽にご相談ください。	


(様式2) 講座メニュー

ITラボ株式会社

授業メニュー名	デジタルツールを使用して、効率化	
対象学年	1年生～3年生	
想定する受講人数	40名	
想定受講者スキルレベル	事前に打合せさせていただき、レベルに合わせた内容で行います。	
授業時間（目安）	3コマ	
授業形式	対面式	
授業内容	<ul style="list-style-type: none">・デジタルツールを習うより慣れる、そして効率よく仕事を行う・様々なツールから自分に合ったツールを見つけるには	
目標・到達スキル	<ul style="list-style-type: none">・デジタルが苦手な人も少しは興味をもってもらい、得意な人にはさらに使いこなす自信をつける・デジタルツールもただの道具なので、使った方が便利という意識付け	
使用教材・ツール	<ul style="list-style-type: none">・テキストエディタ、等	
学校側準備物	講師用	<ul style="list-style-type: none">・インターネット回線及びスクリーン、プロジェクター
	生徒用	<ul style="list-style-type: none">・操作用PC
対応可能な地域	<ul style="list-style-type: none">・青森県全域	
特記事項	<ul style="list-style-type: none">・コマ数に関しても、調整可能です。お気軽にご相談ください。	

(様式1) 企業プロフィールシート

ARUDO (アルド)

会社概要			
設立年	2025年		
従業員数	1名		
本社所在地	北津軽郡鶴田町大字鶴田字前田9-1		
支店・営業所等	なし		
公式サイト			
事業内容			
<ul style="list-style-type: none">・ 県内工務店様向け営業SaaSの企画・開発・運営・ アプリケーション、ウェブサイト、ランディングページ、名刺、フライヤー等の企画・設計・制作・ 新規事業に関する企画立案支援、およびプレゼンテーション指導・伴走支援・ 各種翻訳、通訳			
実績 (任意)			
内容	<ul style="list-style-type: none">・ 県内トップクラスの物件掲載数を有する不動産検索機能付き営業支援SaaSを提供し、導入企業数は津軽地域を中心に増加中・ 鶴田町内の高等学校において、新規事業に関するアイデア創出および壁打ち支援を実施・ 青森市内の小学校において、キャリア形成をテーマとした教育プログラムを実施		
URL			
企業PR			
<p>青森県の活性化を目的として2025年にUターン・創業。代表の工藤は陸上自衛官としての勤務を経て独立し、地域課題の解決に資するITサービスの開発および教育支援に取り組んでいます。顧客ニーズを起点としたプロダクト設計と迅速かつきめ細かな対応力に強みを有しており、特に営業支援SaaSの分野においては、生成AIを活用したプログラミングにより、企画から開発・販売までを約1か月で実現しました。また、青森市内で開催されたピッチコンテストにおいてパッション賞を受賞、スタートアップウィークエンド弘前で1位を取得、ビジネス・ブレイクスルー大学(学長:大前研一)を経営学部長賞(第2位)で卒業するなど、事業構想力およびプレゼンテーション力についても高い評価を受けています。さらに、東京大学AI経営寄付講座(AI Business Insights 2026)を修了し、最新のAI活用に関する知見を実務に活かしています。</p> <p>代表が27歳と若く、実務経験に基づくリアルなキャリア形成の視点を有していることから、高校生にとっても将来像を具体的に描きやすい内容での講義提供が可能です。ITと地域、キャリアを結びつけた実践的な学びを通じて、次世代人材の育成に貢献してまいります。</p>			
担当者連絡先			
担当者	代表 工藤 宏匡		
電話	090-9278-8331	メール	arudo.service@gmail.com

(様式2) 講座メニュー

ARUDO (アルド)

授業メニュー名	AIのアウトプットの善し悪しを判断する「AI君、そんなんじゃデートに誘えないよ」	
対象学年	高校1-3年生（全学年対応可）	
想定する受講人数	1クラス程度～学年全体レベル	
想定受講者スキルレベル	PC、スマホ、生成AI初心者大歓迎	
授業時間（目安）	1コマ（50分）	
授業形式	アウトプット特化（ワーク中心）	
授業内容	<p>1. 個人ワーク①（AIの出力を体験） 違和感を言語化する 「好きな人をデートに誘うLINEを書いて」などのシンプルな指示でAIを使用し、生成された文章を確認する。その文章に対して「自分らしくない点」「誰にでも当てはまる点」などの違和感を整理し、AIの出力を鵜呑みにしない視点を持つ。</p> <p>2. ミニ講義（AIの特徴を理解） “平均的な出力”の構造を知る AIは入力情報が少ないほど「平均的で無難な文章」を生成する傾向があることを説明する。AIの出力の質は入力（指示）の質に依存するという原則を理解する。</p> <p>3. 個人ワーク②（AIのコントロール） 入力設計で出力を変える 相手の性格・関係性・状況・目的などの情報を整理し、それをもとにプロンプトを設計する。再度文章を生成し、最初の出力と比較することで、入力の工夫によって出力が大きく変わることを体感する。</p> <p>4. 振り返り（本質理解） AIと人間の役割を整理する AIを使いこなすためには、判断力と思考力が不可欠であることを理解する。 AIの質は「入力（指示）」によって決まる AIにないものは「自分の情報（経験・意図・文脈）」である</p>	
目標・到達スキル	<ul style="list-style-type: none">・目標：AIを“答えを出す道具”ではなく“考えるための道具”として使う・到達スキル：AIのアウトプットを鵜呑みにせず評価できる力	
使用教材・ツール	<ul style="list-style-type: none">・ブラウザの使用できるタブレット、スマホのうちいずれか・ChatGPTまたは類似生成AI	
学校側準備物	講師用	<ul style="list-style-type: none">・スクリーンもしくはプロジェクター・講師PC接続環境
	生徒用	<ul style="list-style-type: none">・タブレット、スマホのいずれか・Wi-fi等の通信可能環境
対応可能な地域	県内全域	
特記事項	講師は1人で、どの時間帯でも構いません。	

(様式2) 講座メニュー

ARUDO (アルド)

授業メニュー名	他己紹介ピッチ「もしも面接で、自分よりも自分の強みが分かる人が自己PRをしてくれたら…」	
対象学年	高校1-3年生（全学年対応可）	
想定する受講人数	1クラス程度（30～40名程度）	
想定受講者スキルレベル	PC、スマホ、生成AI初心者大歓迎	
授業時間（目安）	1コマ（50分）	
授業形式	アウトプット特化（対面、ペアワーク中心）	
授業内容	<p>1. 個人ワーク（質問設計） AIに質問する力を鍛える 講師が提示するプロンプトを基に、ペアとなる相手の強みを引き出すためのインタビュー内容（質問事項）を考える。強みとそれを裏付ける具体的な経験に着目し、AIに入力する前提で問いを設計する。 生成AIの出力の質は入力する問いに大きく左右されることを踏まえ、「何を聞くか」「どう聞くか」を考えることで、AIに対する適切な質問設計力を養う。</p> <p>2. ペアワーク（インタビュー・AI分析・ピッチ作成） AIと共に情報を整理し、テーマに沿って構造化する 作成した質問をもとにインタビューを行い、相手の情報を取得する。その内容を生成AIに入力し、強み・差別化ポイント・採用理由などをテーマに沿って整理・構造化し、1分間の他己紹介ピッチを作成、それぞれ実施しあう。 AIの出力をそのまま使用するのではなく、自分の言葉で再構成することで、情報整理力と構造化能力を高める。</p> <p>3. 全体ワーク（発表・共有） 他者に伝わる表現と構成を理解する 作成したピッチの中から数ペアが全体の前で発表を行い、伝わりやすい表現や構成について共有する。 振り返りを通じて、AIの活用による効果と限界を整理し、情報を他者に伝えるために必要な表現力・構成力について理解を深める。</p>	
目標・到達スキル	<ul style="list-style-type: none"> ・目標：AIを“答えを出す道具”ではなく“考えるための道具”として使う ・到達スキル：生成AIの実践的な使い方（壁打ち・言語化・構造化）を習得する 	
使用教材・ツール	<ul style="list-style-type: none"> ・ブラウザの使用できるパソコン、タブレット、スマホのうちいずれか ・ChatGPTまたは類似生成AI ・ワークシート（質問テンプレ・プロンプト） 	
学校側準備物	講師用	<ul style="list-style-type: none"> ・スクリーンもしくはプロジェクター ・講師PC接続環境
	生徒用	<ul style="list-style-type: none"> ・PC、タブレット、スマホのいずれか ・Wi-fi等の通信可能環境
対応可能な地域	県内全域	
特記事項	講師は1人で、どの時間帯でも構いません。	

(様式2) 講座メニュー

ARUDO (アルド)

授業メニュー名	株式会社『自分』のWebサイト作成「もし私が私の人事担当者なら、私についてこのようにまとめます」	
対象学年	高校1-3年生（全学年対応可）	
想定する受講人数	1クラス程度（30～40名程度）	
想定受講者スキルレベル	PC、スマホ、生成AI初心者大歓迎	
授業時間（目安）	1コマ（50分）	
授業形式	アウトプット特化（個人ワーク中心）	
授業内容	<p>1. AI活用（手順展示・例示） AIでのサイト作成プロセスを理解する 講師がAIを用いた自己紹介サイトの作成手順を実演し、プロンプトの考え方や構成の作り方を示す。どのように情報を入力し、どのようにアウトプットが生成されるかを理解することで、AIを活用した情報整理と表現の基本を学ぶ。（https://sato-takaaki.work/）</p> <p>2. 個人ワーク（作成・整理） 自己情報を構造化し、サイトとして形にする 実際にAIを活用して自己紹介サイトを作成する。サイトに掲載するための情報（経歴・強み・価値観など）を整理・集約し、それをもとに生成・編集を行うことで、情報を構造化し表現する力を養う。 また、人事担当者として“まるで他人を評価するかのように”記述することで、自分自身を客観的に振り返る機会とする。</p> <p>3. 全体ワーク（発表） 他者視点から自己表現を見直す 作成した自己紹介サイトを発表し、こだわりポイントや工夫した点を共有する。他者の成果物を見ることで、自分の表現や構成を客観的に捉え直し、より伝わる自己表現について理解を深める。</p>	
目標・到達スキル	<ul style="list-style-type: none">・目標：自己を客観視し、強みや価値を言語化するとともに、AIを活用して相手に伝わる形で表現できるようにする・到達スキル：生成AIを活用した基本的なコンテンツ生成の流れを理解する	
使用教材・ツール	<ul style="list-style-type: none">・ブラウザの使用できるパソコン、タブレットのうちいずれか・Google AI Studio	
学校側準備物	講師用	<ul style="list-style-type: none">・スクリーンもしくはプロジェクター・講師PC接続環境
	生徒用	<ul style="list-style-type: none">・PC、タブレットのいずれか・Wi-fi等の通信可能環境
対応可能な地域	県内全域	
特記事項	講師は1人で、どの時間帯でも構いません。	

(様式2) 講座メニュー

ARUDO (アルド)

授業メニュー名	ウェブサイト添削「私だったらこのサイト、もっとかっこよくできる！」	
対象学年	高校1-3年生（全学年対応可）	
想定する受講人数	1クラス程度（30～40名程度）	
想定受講者スキルレベル	PC、スマホ、生成AI初心者大歓迎	
授業時間（目安）	1コマ（50分）	
授業形式	アウトプット特化（個人ワーク中心）	
授業内容	<p>1. AI活用（手順展示・例示） サイト改善の視点とAI活用方法を理解する 講師が実際のWebサイトを例に、課題の見つけ方（見づらさ・伝わりにくさ・構造の弱さなど）を提示し、その改善案をAIで生成するプロセスを実演する。どのような視点で問題を捉え、どのようにAIに指示を出すかを学ぶ。</p> <p>2. 個人ワーク（分析・生成） サイトの課題を言語化し、改善案を作成する 各自で選んだWebサイトについて、問題点を洗い出し、「なぜ良くないのか」「どうすれば良くなるのか」を整理する。その上でAIを活用し、改善されたサイト構成やコピー、デザイン案を生成することで、課題発見と改善提案の力を養う。</p> <p>3. 全体ワーク（発表） 他者の視点から改善案を比較・理解する 作成した改善案を発表し、どのような問題意識を持ち、どのように改善したかを共有する。他者の分析や提案を聞くことで、自分では気づけなかった視点や表現の違いを理解し、アウトプットの質を高める。</p>	
目標・到達スキル	<ul style="list-style-type: none">・目標：Webサイトの課題を発見し、その解決策を具体的なアウトプットとして設計・提示することで、相手に伝わりやすい表現力を身につける。・到達スキル：生成AIを活用した基本的なコンテンツ生成の流れを理解する	
使用教材・ツール	<ul style="list-style-type: none">・ブラウザの使用できるパソコン、タブレットのうちいずれか・Google AI Studio	
学校側準備物	講師用	<ul style="list-style-type: none">・スクリーンもしくはプロジェクター・講師PC接続環境
	生徒用	<ul style="list-style-type: none">・PC、タブレットのいずれか・Wi-fi等の通信可能環境
対応可能な地域	県内全域	
特記事項	講師は1人で、どの時間帯でも構いません。	


(様式2) 講座メニュー

ARUDO (アルド)

授業メニュー名	ビジネスプレゼン入門「人を動かすプレゼンはどう作るか」	
対象学年	高校1-3年生（全学年対応可）	
想定する受講人数	1クラス程度（30～40名程度）	
想定受講者スキルレベル	PC、スマホ、生成AI初心者大歓迎	
授業時間（目安）	2コマ（100分）	
授業形式	講義＋個人ワーク	
授業内容	<p>【前半】インプット（理解・分析） ビジネスプレゼンの構造を理解する 国内外の実際のプレゼンを例に、ビジネスにおけるプレゼンの考え方を整理する。「誰に対して話すのか」「何を伝えるのか」「なぜ話すのか」「どのような行動を促すのか」といった視点を軸に、TPQに応じたプレゼンの違いを理解する。その後、複数のプレゼン動画を視聴し、構成、話し方、資料の使い方を比較しながら、「伝わるプレゼンの共通点」を分析・言語化する。</p> <p>【後半】アウトプット（設計・実践） 自分のプレゼンを作り、発表する 自分が伝えたいテーマを設定し、プレゼンの原稿を作成する。前半で学んだフレームを基に、目的・対象・メッセージ・行動喚起を整理し、短いプレゼンとして構成する。実際に発表し、話し方や構成の観点からフィードバックを行う。また、質疑応答を通じて、質問への対応方法や伝え方の調整についても学ぶ。</p>	
目標・到達スキル	<ul style="list-style-type: none">・目標：実際のビジネス現場で使われているプレゼン・ピッチの基本を理解し、相手に伝わる構成と話し方を意識して発表できるようにする。・到達スキル：プレゼンの考え方、資料構成、話し方、練習方法、質疑応答の基本を理解し、短時間の発表として実践できる。	
使用教材・ツール	<ul style="list-style-type: none">・ブラウザの使用できるパソコン、タブレット、スマホのうちいずれか・ChatGPTまたは類似生成AI	
学校側準備物	講師用	<ul style="list-style-type: none">・スクリーンもしくはプロジェクター・講師PC接続環境
	生徒用	<ul style="list-style-type: none">・PC、タブレット、スマホのいずれか・Wi-fi等の通信可能環境
対応可能な地域	県内全域	
特記事項	講師は1人で、どの時間帯でも構いません。	

(様式1) 企業プロフィールシート

株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー

会社概要			
設立年	1999(平成11)年4月1日		
従業員数	約12,600名(2025年4月現在)		
本社所在地	〒163-8019 東京都新宿区西新宿3-19-2		
支店・営業所等	青森エリア統括部		
公式サイト	https://www.ntt-me.co.jp/		
事業内容			
<p>【電気通信及び情報通信に関する事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電話網・県間通信ネットワークを含めたIP網の構築・維持・運用・サービス品質管理 ・電気通信及び情報通信に関する技術支援・人材育成 ・データセンター関連事業・データセンタ間ネットワークの提供 <p>【ビジネスサポートに関する事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■一般のお客さま向けソリューション事業 <ul style="list-style-type: none"> ・インターネット接続サービスの提供 (ISP) ・環境ソリューションの提供 ■NTT東日本向けソリューション・サポート事業 <ul style="list-style-type: none"> ・SI/MIソリューション・サポートの提供 ・社内システム・ネットワークの開発・構築・運用 ・保守サポートの提供 (ワンストップ監視・保守、セキュリティ運用 等) ■地域のお客様 (地方自治体・インフラ事業者・通信事業者・企業等) の課題解決に関する事業 <ul style="list-style-type: none"> ・無線・IoTサービスの提供 ・脱炭素に向けた自然エネルギー、次世代インフラ点検、防災ソリューションの提供 等 			
実績 (任意)			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・A県立H高校ねぶたの3Dアーカイブ化 (令和7年度DXハイスクール事業) ・M県S市高校生等向けIT・AI活用プログラム運営事業 ・I県立M商工高等学校 学生向け生成AI技術ハンズオン授業 ・A県立A高等学校 学生向け生成AI基礎講座 ・A県立Y学院 教員向け生成AI基礎講座 		
URL			
企業PR			
<p>NTT-MEはNTT東日本グループの一員として、通信インフラやICT技術を通じて地域社会を支える総合エンジニアリング企業です。青森県を含む東日本各地で、光ファイバーやネットワークの構築・保守、ICTを活用した地域課題の解決に取り組んでいます。AI・IoT・ドローンなどの先端技術を活用し、青森県内の防災・観光・教育・まちづくりを支援しています。さらに、3D映像によるねぶたのアーカイブ化を通じて、地域文化の継承にも貢献しています。通信やAIといった技術は、生徒の身近な暮らしや地域の未来と深くつながっています。授業を通じて「学ぶこと」と「社会で働くこと」を結びつけ、生徒一人ひとりの成長を支援します。</p>			
担当者連絡先			
担当者	東北ブロック統括本部 青森エリア統括部 エリアプロデュース担当 高橋、佐藤		
電話	017-731-0951	メール	aomori_areaproduce_PSM-gm@east.ntt.co.jp

(様式2) 講座メニュー **株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー**

授業メニュー名		生成AIと付き合う力を身につける ～知る・使う・判断する～
対象学年		高校1～3年生
想定する受講人数		1クラス程度 (30～40人程度)
想定受講者スキルレベル		生成AI未経験・初心者向け
授業時間 (目安)		3コマ (各50分/計150分)
授業形式		座学・ハンズオン
授業内容		<p>「生成AIを使ったことがない」「使っているが、よく知らない」生徒向けに、正しく安全に生成AIを使うための、基本的な知識を身に付けます。</p> <p>【1コマ目：生成AIを知る】 (50分) 生成AIの基本を身近な例を用いて解説します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 生成AIとは何か 生成AIのしくみ <ul style="list-style-type: none"> 学習方法 得意なこと、苦手なこと 人間との違い 生成AIの活用事例 (学校・社会) <p>【2コマ目：生成AIを使ってみる】 (50分) AIチャットサービスを用いて、生成AIを使いこなす力を身に付けます。 プロンプト (指示文) の作り方の他、利用する際の注意点や生成物の扱い方について、実際の機材を用いた演習やクイズを用いて理解を深めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> ChatGPT等を使った文章生成体験 <ul style="list-style-type: none"> AIが理解しやすいプロンプトの作り方 生成物の取り扱い方 等 <p>【3コマ目：正しく使う】 (50分) 便利だけではない生成AIの「よくあるリスク」と、安全に取り扱うための方法を学びます。 生徒にとって身近な場面をテーマに、生成AIのリスクと対処法を考える時間を提供します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 生成AIのリスク <ul style="list-style-type: none"> 権利侵害や偏見について SNSや普段の生活に潜む生成AIリスクケーススタディ ～こんな時、どうする？～
目標・到達スキル		1コマ目：生成AIの概要を理解できる。 2～3コマ目：学びや暮らし、社会の中でAIを正しく活用する力を身につける。
使用教材・ツール		<ul style="list-style-type: none"> プレゼン資料、PC (インターネット接続) AIチャットサービス ※ChatGPTやMicrosoft Copilotを想定していますが、学習への活用を希望するAIツールがある場合はご相談ください。
学校側準備物	講師用	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクターや大型ディスプレイ等、プレゼン資料を投影できる機器 (可能であれば) 講師用PC接続環境 (電源、Wi-Fi環境)
	生徒用	<ul style="list-style-type: none"> PCまたはタブレット (インターネット接続) ※学校側の端末を利用する想定ですが、弊社ではPCを30台までご用意可能です。 ご使用台数が30台を超える場合は、不足分のご準備をお願いいたします。 Wi-Fi環境、筆記用具
対応可能な地域		問いません
特記事項		<p>※本授業は150分相当の内容を想定していますが、各コマは独立して実施可能です。</p> <p>※生成AIに関する授業メニューやその他の授業と組み合わせて実施すること等、内容については協議の上調整が可能です。</p> <p>例：授業内容①【生成AIを知る】+授業内容⑤【はじめての画像AI体験～画像を見て判断するAIを作ってみよう～】で3コマ 等</p> <p>※講師1人、サブ講師2人を想定しています。</p>

(様式2) 講座メニュー

株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー

授業メニュー名	IT・通信の仕事から学ぶ、デジタル社会の働き方とキャリア	
対象学年	高校1～3年生	
想定する受講人数	1コマ目：1クラス程度（30～40人程度） 2コマ目：1クラスまたは一斉講話可（体育館や講堂等）	
想定受講者スキルレベル	どなたでも受講可能（理系・文系を問わず）	
授業時間（目安）	2コマ（各50分／計100分）	
授業形式	1コマ目：座学+実習 2コマ目：講話	
授業内容	<p>【1コマ目：IT・通信企業の仕事内容】（50分） IT・通信業界のトレンドをお伝えするとともに、多岐に渡る職種（デジタルサイエンティスト、デジタルマーケター、デジタルコンサルタント、システムエンジニア、ネットワークエンジニア等）の説明した後、デジタル社会に不可欠である、光ファイバーケーブルの融着接続を実際に体験して頂きながら、生活の一部である通信インフラ業務の魅力をお伝えします。</p> <p>【2コマ目：DX人材と働き方】（50分） 青森県出身で現場第一線のDX人材（可能であれば高校OB・OG）より、仕事のやりがいを伝えるとともに、社会で求められるスキルを現場の目線から、生徒の皆様にお伝えします。また、元採用人事担当からの、世の中で求められる素養や、就職活動時における採用ポイント、高校生からキャリアデザインを明確にすることで、勉学の意識醸成を加速する授業内容を想定しています。高校側の要望がある場合は、ヒアリングを通し生徒の皆様への満足度が高くなるカリキュラムを高校区々で制作し提供する予定です。</p>	
目標・到達スキル	IT・通信業界の社会における役割を知り、県内IT企業で働く社会人の仕事内容や働き方について理解できる。	
使用教材・ツール	プレゼン資料、光ファイバー融着機器(1コマ目)	
学校側準備物	講師用	・プロジェクターや大型ディスプレイ等、プレゼン資料を投影できる機器（可能であれば） ・講師用PC接続環境（電源、Wi-Fi環境）
	生徒用	筆記用具
対応可能な地域	問いません	
特記事項	特になし	

(様式2) 講座メニュー **株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー**

授業メニュー名	社会におけるデータとAIの存在とは ～身近なデータとAIの世界～	
対象学年	高校1～3年生	
想定する受講人数	1クラス（約30～40名）または一斉講話（体育館・講堂等）：全校生徒対象も可	
想定受講者スキルレベル	どなたでも受講可能 （社会における身近なデータやAIの活用に興味・関心のある生徒を歓迎）	
授業時間（目安）	1コマ（50分）	
授業形式	座学・一斉講話（体育館・講堂等）	
授業内容	<p>「データ」や「AI」という言葉は聞いたことがあるが、実際に何を指しているのか、社会や将来とどう関わるのか、身近な事例を通して、データと生成AIの基本的な考え方を理解します。 AIを特別な技術としてではなく、これからの社会で当たり前に関わる存在として捉えることを目的とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> データって何？身の回りの「事実」を考えてみよう <ul style="list-style-type: none"> データとは何か 日常生活の中にあるデータの例 データを使うと何が変わる？ <ul style="list-style-type: none"> 勤や経験だけに頼らない考え方 データをもとに判断する（データドリブン）の考え方 社会での活用例紹介 データとAIの関係性 <ul style="list-style-type: none"> AIとは何か 私たちが日常で使っているAIの身近な例 	
目標・到達スキル	身の回りや社会の中で、データやAIがどのように活用されているかについて理解できる。	
使用教材・ツール	プレゼン資料	
学校側準備物	講師用	・プロジェクターや大型ディスプレイ等、プレゼン資料を投影できる機器（可能であれば） ・講師用PC接続環境（電源、Wi-Fi環境）
	生徒用	筆記用具
対応可能な地域	問いません	
特記事項	<p>※生成AIに関する授業メニューやその他の授業と組み合わせて実施すること等、内容については協議の上調整が可能です。 ※授業内容④「データで見える世界を探究しよう！～可視化で読み解く社会の姿～」、授業内容⑤「はじめての画像AI体験～画像を見て判断するAIを作ってみよう～」を選択の際は、事前知識の習得として、本授業を取り入れていただくことを推奨します。 ※講師1人を想定しています。</p>	

(様式2) 講座メニュー **株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー**

授業メニュー名	データで見える世界を探究しよう！～可視化で読み解く社会の姿～	
対象学年	高校1～3年生	
想定する受講人数	1クラス (30～40名)	
想定受講者スキルレベル	どなたでも受講可能 (理系・文系を問わず)	
授業時間 (目安)	2コマ (各50分/計100分)	
授業形式	ハンズオン	
授業内容	<p>【1コマ目：デジタルで体験するデータ可視化】 (50分) 身近な数値データをグラフとして「見える化」することで、表や数字を眺めるだけでは気づきにくい傾向や違いを発見する体験型授業です。企業や自治体でも使われているデータ活用の考え方を、生徒にも分かりやすく紹介します。</p> <ol style="list-style-type: none"> データの可視化とは何か <ul style="list-style-type: none"> 数字や表のままのデータと、グラフで表したデータを見比べ、「何が分かりやすくなるのか」「どんな気づきが生まれるのか」を体感します データの可視化が、ニュースやビジネス、行政など、私たちの身の回りでどのように活用されているかを具体例で紹介します データを見て、考えてみよう <ul style="list-style-type: none"> オープンデータ等のサンプルデータを使い、実際にグラフを作成・操作します グラフから読み取れる傾向や変化について、「何が言えそうか」「なぜそうなっているのか」を考え、簡単に共有します ※正解を出すことが目的ではなく、データを根拠に考える姿勢を重視します。 <p>【2コマ目：自分たちのまちをデータで見てみよう～人流データ分析 体験授業～】 (50分) 人の動きを表した「人流データ」を使い、自分たちが暮らす地域や社会の様子をデータから読み取る授業です。地図や時間帯の変化を見ながら、「まちのにぎわい」や「人の行動」を考えます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 人流データとは何か <ul style="list-style-type: none"> 人流データがどのように集められているかを、仕組みレベルで簡単に説明します。 防災、商業、イベント運営など、社会での活用例を紹介し、「なぜ人の動きを知ることが重要なのか」を考えます 人流データを見て、理由を考えてみよう <ul style="list-style-type: none"> 実際の操作画面を使い、時間帯や曜日ごとの人の動きを確認します 「この時間帯に人が多いのはなぜか」「この日に人が集まっている理由は何か考えられるか」など、データをもとに仮説を立てて考えます 	
目標・到達スキル	データを「見る」「考える」体験を通して、身の回りや社会で起きている出来事を、データを根拠に捉え考える姿勢を身につける	
使用教材・ツール	<ul style="list-style-type: none"> プレゼン資料、PC (インターネット接続) Tableau Desktop (データ可視化ツール)、Location AI Platform (人流データ) 	
学校側準備物	講師用	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクターや大型ディスプレイ等、プレゼン資料を投影できる機器 (可能であれば) 講師用PC接続環境 (電源、Wi-Fi環境)
	生徒用	<ul style="list-style-type: none"> Wi-Fi環境、筆記用具 ※授業で使用するPCはNTTにて準備いたします (最大30台予定)
対応可能な地域	問いません	
特記事項	<p>※その他の授業と組み合わせて実施すること等、内容については協議の上調整が可能です。</p> <p>※本授業を選択の際は、事前知識の習得として、授業内容③「社会におけるデータとAIの存在とは ～身近なデータとAIの世界～」を取り入れていただくことを推奨します。</p> <p>※講師1人、サブ講師2人を想定しています。</p>	

(様式2) 講座メニュー **株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー**

授業メニュー名		はじめての画像AI体験～画像を見て判断するAIを作ってみよう～
対象学年		高校1～3年生
想定する受講人数		1クラス (30～40名)
想定受講者スキルレベル		どなたでも受講可能 (理系・文系を問わず)
授業時間 (目安)		2コマ (各50分/計100分)
授業形式		ハンズオン
授業内容		<p>画像を使ったAIの仕組みを体験しながら学びます。AIを「作る側」の一連の流れを体験を通し、AIがデータをもとに判断していることや「人の役割」が重要であることについて学びます。</p> <p>【1コマ目：画像AIのしくみと画像分類体験】 (50分)</p> <ol style="list-style-type: none"> AI・画像AIの基礎理解 <ul style="list-style-type: none"> 人が「見て判断していること」を、AIがどのように行っているかを理解する ニューラルネットワークのイメージ体験 <ul style="list-style-type: none"> AIが中で何をしているか (ニューラルネットワーク) を、イメージとして理解する 画像分類AIを作ってみよう <ul style="list-style-type: none"> 簡易ツールを使って画像分類AIを作成する 操作を通しデータや教え方によって結果が変わることに気づく <p>【2コマ目：物体検出とデータ作り体験】 (50分)</p> <ol style="list-style-type: none"> 画像分類と物体検出の違い <ul style="list-style-type: none"> よく似た2つの技術について、役割の違いを整理する 物体検出AIの活用例紹介 <ul style="list-style-type: none"> 防犯カメラや自動運転など、身近な社会・仕事での活用例を知る 物体検知AIを作ってみよう <ul style="list-style-type: none"> アノテーション (正解データの学習) を通して「AIに教える側」を体験する データ作りによる人の判断が欠かせないことを理解する
目標・到達スキル		AIを「使う側」だけでなく、「作る・教える側」の視点で考えられるようになる
使用教材・ツール		<ul style="list-style-type: none"> プレゼン資料、PC (インターネット接続) Google Colaboratory(1コマ目)、MAKE SENSE(2コマ目)
学校側準備物	講師用	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクターや大型ディスプレイ等、プレゼン資料を投影できる機器 (可能であれば) 講師用PC接続環境 (電源、Wi-Fi環境)
	生徒用	<ul style="list-style-type: none"> PCまたはタブレット (インターネット接続) <p>※学校側の端末を利用する想定ですが、弊社ではPCを30台までご用意可能です。 ご使用台数が30台を超える場合は、不足分のご準備をお願いいたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> Wi-Fi環境、筆記用具
対応可能な地域		問いません
特記事項		<p>※生成AIに関する授業メニューやその他の授業と組み合わせることで実施すること等、内容については協議の上調整が可能です。</p> <p>※本授業を選択の際は、事前知識の習得として、授業③「社会におけるデータとAIの存在とは ～身近なデータとAIの世界～」を取り入れていただくことを推奨します。</p>

(様式1) 企業プロフィールシート

株式会社Q'sfix

会社概要			
設立年	1976年1月24日		
従業員数	914名 (2025年4月現在)		
本社所在地	東京都千代田区丸の内一丁目7番12号サピアタワー26F		
支店・営業所等	青森県青森市第二問屋町四丁目11番18号ソフトアカデミーあおもりビル3F (他はホームページ参照)		
公式サイト	https://www.qsfix.com/		
事業内容			
システムインテグレーションサービス/ソフトウェア開発サービス/ インフラ構築サービス/モバイルシステム開発サービス/生体・動作計測に関する、研究、開発、 コンサルならびに自社開発製品・輸入製品の販売/入退室管理システムの開発・販売			
実績 (任意)			
内容	弊社による事例は、以下URLよりご参照ください。		
URL	https://www.qsfix.com/case		
企業PR			
1976年の創業以来、私たちQ'sfixは社会を支えるシステムを世に送り出し続けています。 今後も、お客様の新たなニーズにお応えし、確かな信頼を守り続けるために、 Quality (品質)、Quantum (画期的な・革新的な)、Quest (探求・向上)、Quickly (迅速に)、Quintessence (本質) の5つの要素を確かに実現し追求しながら、一丸となってお客様へのサービス提供をfixすることを目指します。			写真
担当者連絡先			
担当者	テクノロジーファクトリーGr ディレクター 古川 真司		
電話	017-718-4690	メール	kogawa@cabcsgroup.com

(様式2) 講座メニュー

株式会社Q'sfix

授業メニュー名	地域DXを担う次世代エンジニア体験授業：システム開発とクラウドコンピューティング	
対象学年	高校2～3年生	
想定する受講人数	1クラス程度（30～40人程度）	
想定受講者スキルレベル	PC基本操作ができる生徒 かつIT関係へ興味がある生徒	
授業時間（目安）	2コマ（100分）	
授業形式	対面講義（環境が整えば構築したシステムへのアクセス体験）	
授業内容	<p>【1コマ】 システム開発（IT企業）の業務内容の学習 企画：「不便」を「便利」に変えるアイデア出し（Why） 要件定義・設計： アイデアを具体的な機能や図に落とし込む（What） 製造（プログラミング）： 決めたルール通りに形にする（How） テスト： 最初に考えた「不便」がちゃんと解決しているか確認する（Check）</p> <p>【2コマ】 システムをAWS上で動かす体験をする AWSコンソール実演： 世界中のプロが使う管理画面の実演 クラウドの力： サーバーが数分で立ち上がるスピード感と、拡張性を体感。 プロの視点： AWS認定プロフェッショナルが教える、システムの安定運用手法</p>	
目標・到達スキル	AWS認定資格（Professional）を保有する現役エンジニアが、世界標準のテクノロジー（AWS）を直接指導することで、高校生にIT業界の最前線を体感させ、キャリア形成の一助とする。	
使用教材・ツール	プレゼン資料、PC・AWSアカウント（教員用）	
学校側準備物	講師用	プロジェクター（PC画面を投影できる環境）、インターネット接続環境
	生徒用	PCまたはタブレット（ブラウザ対応）、Wi-Fi環境、筆記用具
対応可能な地域	東青地区、津軽地方	
特記事項	平日午後の実施を希望	

(様式1) 企業プロフィールシート

ディーシーティーデザイン

会社概要			
設立年	2004年		
従業員数	2名		
本社所在地	青森県青森市浜田玉川140-68		
支店・営業所等	なし		
公式サイト	https://www.dct-design.jp/		
事業内容			
デジタル媒体・紙媒体の企画・制作・運用コンサルティング、SNSの企画・運用コンサルティング、各種講演			
実績（任意）			
内容	青森県警察・県民局・青森県社会教育センター・各地の商工会・青森県営農大学校・青森中央学院大学・青森山田高等学校IT科等の講師歴多数。		
URL	https://www.dct-design.jp/works/		
企業PR			
<p>2004年に設立後、デジタル媒体や紙媒体の企画から制作、活用提案、さらに継続的な運用支援を行っています。企業や教師の方々に向けたセミナー講師のほか、経営者向けの講演なども行っています。2012年、青森県内の仲間とNPO法人あおもりIT活用サポートセンターを設立。IT教育部会を担当し、ITに関わる人材育成にも力を注ぎました。</p> <p>WebサイトやSNS、紙媒体の制作においても、今はAIの活用が欠かせない時代になりました。構成を整えたり、情報を整理したりするスピードは格段に上がっています。しかし、AIに頼りっきりで「温度」が伝わりにくくなってしまいます。同じ商品でも、同じ事業でも、背景にある努力や誇りは一つとして同じものはありません。その思いを感じ取り、言葉に宿すことが大切です。だからこそ最後の仕上げは必ず人間の目で確かめ、人間の手で整えます。言葉を何度も見直し、余白や色・ことばの読みやすさを調整し、写真の1枚までこだわる。そこまでやって初めて、`伝える、こと、そして`届く、ことが生まれます。今の時代、全国へ、世界へと発信できる時代だからこそ、`浅く広く、ではなく`深くていねいに、伝えたい。背景にある物語まできちんと伝えること。それが、この仕事に関わる者としての責任だと思っています。『伝える力で、地域と人をつなぐ』。技術は進化しますが、最後に人の心を動かすのは人の言葉です。AIを活用しつつ、『人の手による、人のための仕上げ』を大切にしながら、情報の価値を求める人々に確実に届け続けたいと思っています。</p>			
担当者連絡先			
担当者	蝦名晶子（佐々木晶子）		
電話	080-5565-8163	メール	info@dct-design.net

(様式2) 授業メニュー ディーシーティーデザイン

授業メニュー名	Webを活用した効果的な情報発信のしかた	
対象学年	高校1～3年生	
想定する受講人数	1クラス (30～40人) 程度	
想定受講者スキルレベル	特になし	
授業時間 (目安)	2コマ (50分×2)	
授業形式	対面講義・ワークショップ	
授業内容	<p>1. SNSとWebサイトとの関係性・・・SNSの役割とWebサイトの役割 (AI検索についてなど)</p> <p>2. ヒトの心理を知る</p> <p>3. 色の基本・テキストの見え方を知る</p> <p>4. コンテンツの作りかた・・・「6W4H」を考える (ワークショップ) 青森県の魅力をどのように伝えと効果的かをグループで考え、発表する</p> <p>5. 「4」で発表してもらった内容へのアドバイス</p> <p>6. まとめ</p> <p>※1コマ目が終了したあと、2コマ目で発表していただくため、別途1コマ程度の整理し考える時間が必要かもしれません。</p>	
目標・到達スキル	SNSとWebサイトの関連性を理解し、正しい「コトバ」や色を活用した視覚的・心理的に効果的な情報発信ができる	
使用教材・ツール	プレゼン資料・PCまたはタブレット (検索できれば可)	
学校側準備物	講師用	プロジェクター・スクリーン
	生徒用	PCまたはタブレット (Webブラウザ利用)、Wi-Fi環境、筆記用具
対応可能な地域	青森県内	
特記事項	できれば金曜の午後に希望 (早めのご依頼であれば別な曜日でもご相談に応じます) ※冬期間以外	

(様式1) 企業プロフィールシート

株式会社デーリー東北新聞社

会社概要	
設立年	1945年(昭和20年)12月
従業員数	196人
本社所在地	青森県八戸市城下1-3-12
支店・営業所等	青森支社、東京支社、仙台支社、十和田総局、三沢総局、むつ総局、三戸支局、五戸支局、盛岡支局、久慈支局、二戸支局
公式サイト	https://www.daily-tohoku.company/
事業内容	
(1) 時事に関する事項を掲載する日刊新聞「デーリー東北」の発行 (2) 書籍・雑誌等の出版販売 (3) 旅行業法に基づく旅行業 (4) 損害保険代理業 (5) 不動産賃貸及び管理業 (6) 芸術文化・スポーツ・観光等の振興に係る事業 (7) 指定管理の受託に係る事業 (8) 情報システムに関する事業	
実績(任意)	
内容	<p>下記はすべて2025年度内のIT人材育成事業実績となります。</p> <p>【学生実績.1】六戸学園ICTサークルの運営サポート(14回、部員10名参加) ・六戸学園の中学生対象、Scratchプログラミング授業をサポート。</p> <p>【学生実績.2】八戸市こどもまちなかIT部の運営サポート(15回、部員23名参加) ・八戸の中高生と八戸の魅力をWebで発信するプロジェクト。取材・記事作成、HP編集をサポート。</p> <p>【学生実績.3】アレック情報ビジネス学院でAI駆動開発ゲーム作成の授業を実施(2回、各回16名参加)</p> <p>【自治体実績.1】八戸市職員に対し、AI・ITハンズオン研修を実施(全7回、合計149名参加)</p> <p>【自治体実績.2】田子町職員に対し、ITハンズオン研修を実施(1回、11名参加)</p>
URL	
企業PR	
<p>デーリー東北新聞社 DX事業部は、企業や自治体のDX支援を行っています。</p> <p>事業内容は主に、業務システム開発、RPA・AIエージェント開発、Webサイト制作、AI/IT研修です。</p> <p>最近では、AI駆動による開発(AIをフル活用した開発)でDXの企画から実装・運用までをワンストップでご支援しています。</p> <p>また、地域の自治体や教育機関との連携を深め、子どもたちのITリテラシー向上やキャリア形成支援にも注力しています。</p> <p>私たちは、新聞社の社内IT部門としてシステムを「使う側」の課題に向き合ってきた経験を持っています。</p> <p>ユーザーとして現場の不便や課題を体感してきたからこそ、「本当に使えるDX」をご提案できると考えています。</p> <p>最新の生成AIなどの技術についても、座学だけではなくハンズオン主体の授業を通じて、実践的かつ分かりやすい学びをご提供できればと考えています。</p>	
担当者連絡先	
担当者	DX事業部 森 葉子
電話	080-2538-9588(部署直通)
メール	mori.yoko@daily-tohoku.co.jp



(様式2) 講座メニュー

株式会社デーリー東北新聞社

授業メニュー名	AI駆動開発でゲーム制作（ゲーム作成を通して一般企業でも当たり前となったAI活用の現場を知る）	
対象学年	高校1～3年生	
想定する受講人数	15人程度	
想定受講者スキルレベル	PC基本操作ができる生徒	
授業時間（目安）	2コマ（1コマ50分×2コマ＝100分）期間を空けず連続しての授業を希望	
授業形式	対面講義＋ハンズオン	
授業内容	<p>(1) AI駆動開発の基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ かつてのプログラミングと、AIを使った現代の開発スタイルの違いを実演を交えて解説します。 ・ 「コードを書く」から「AIと対話して設計する」への変化を肌で感じてもらいます。 <p>(2) AI時代に求められる3つのコアスキル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体化する力：目的・制約・受入条件を明確にする論理的思考力を学びます。 ・ 段階的に積み上げる力：段階ごとに確認を挟む「確認のリズム」の重要性をワークを通じて理解します。 ・ AIを相棒にする力：ツールの特性「AIエージェント活用術」の基礎を解説します。 <p>(3) AI駆動開発でゲームを制作を体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際にゲームをAIで作ってみよう：AIを活用し、生徒がプロンプト（指示文）を入力して実際に動くゲームを構築します。 ・ AIの間違いをAIで修正する：エラーが出た際のAIへの聞き方や、理想の動作に近づけるための「言語化能力」の重要性を体験します。 <p>(4) 社会で求められる「AIを使いこなす力」とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職種を問わないAI活用術：IT業界だけでなく、あらゆる職種でAI活用について紹介します。 ・ 課題設定能力の重要性：技術そのものよりも、「何を求められているか」「何を解決したいか」という課題設定能力、推進力、決めていく力の大切さをまとめます。 	
目標・到達スキル	<ul style="list-style-type: none"> ・ AIとの協働能力：AIツールを使い、プログラムを生成・実行する一連の流れを理解できる。 ・ 論理的な伝達スキル：AIへのプロンプト作成を通じて、自分の意図を他者に伝える言語化能力を養う。 ・ 主体的なキャリア観の形成：プログラミングへの心理的障壁を下げ、最新技術を武器にする仕事像を体感できる。ITスキルの習得が、IT業界のみならずあらゆる職種での武器になることを知り、県内IT企業への関心や進路の選択肢を広げる。 	
使用教材・ツール	<ul style="list-style-type: none"> ・ プレゼン資料、PC（ブラウザ接続）、AIサービス（ClaudeCode等） 	
学校側準備物	講師用	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクターや大型モニター
	生徒用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし
対応可能な地域	<ul style="list-style-type: none"> ・ 八戸市（その他：三八地域、上北地域 要相談） 	
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平日（その他：土曜日検討可能） メイン講師1名、補助スタッフ2名 	

(様式2) 講座メニュー **株式会社デーリー東北新聞社**

授業メニュー名	企業や社会が求めるIT・DX人材のビジネススキルとヒューマンスキル	
対象学年	高校1～3年生	
想定する受講人数	1クラス程度 (30～40人程度)	
想定受講者スキルレベル	PC基本操作ができる生徒	
授業時間 (目安)	1コマ (50分)	
授業形式	対面講義	
授業内容	<p>(1) なぜ今、多くの業界で「IT・DX人材」が必要なのか。 ・ 新聞社がDX推進に取り組んでいる背景など、身近な事例から社会の変化を解説します。</p> <p>(2) AI時代に価値が高まる「ヒューマンスキル」 ・ AIにはできない「質問する力」「共感する力」「伝える力」についてワークショップ形式で考えます。 ・ 即席でチームを作りヒアリングとプレゼン実習を行います。 短時間での状況判断と何を求められているかの出口を意識しインプットとアウトプットを実行。</p> <p>(3) 青森で働く魅力と、自分らしいキャリアの描き方 ・ 県内IT企業の仕事のやりがいや、地元で働く面白さを伝えます。</p>	
目標・到達スキル	<p>実践的なインプット・アウトプット能力の習得 ・ ワorkshopを通じ、限られた時間内で「相手が何を求めているか (出口)」を察知して情報を集め、プレゼンする基礎的なビジネス基礎体力を体感する。伝えること自分を演習するビジネススキルを習得。</p> <p>「選ばれる人材」「投資される人材への意欲」としてのマインドセット ・ 企業が「教育コストをかけてでも育てたい」と思うのは、グッドネイチャード=良い人であること。 Googleの事例「グッドネイチャード」世界のトップ企業すら「良い人 (誠実な人)」を求めているという事実は、世界共通の「ビジネススキル」であることを学ぶ。</p> <p>青森県内で働く輝く可能性が広がる ・ 地域の人々と対面で関わり、目の前の困りごとを直接解決する「ローカルな手応え」と、リモートで東京や世界の最先端プロジェクトに挑戦できるIT業界ならではの働き方を知り、進路選択の視野を広げる。地方と首都圏の仕事を両立させる、青森ならではの働く楽しさを理解する。</p>	
使用教材・ツール	・ プレゼン資料、PC (ブラウザ接続)	
学校側準備物	講師用	・ プロジェクターや大型モニター
	生徒用	・ 特になし
対応可能な地域	・ 八戸市 (その他: 三八地域、上北地域 要相談)	
特記事項	・ 平日 (その他: 土曜日検討可能) メイン講師1名、補助スタッフ2名	

(様式1) 企業プロフィールシート

株式会社DRAGON AGENCY

会社概要			
設立年	2010年		
従業員数	40名		
本社所在地	愛知県名古屋市中村区名駅5丁目23番17号 名駅フォレストビル3F		
支店・営業所等	青森支店		
公式サイト	https://dragonagency.co.jp		
事業内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・受託ソフトウェア開発 (Web・スマートフォン・AIなど) ・パッケージソフトウェア開発/自社製品開発・サービス提供 ・PoC開発・社会実装・産学連携・地域連携 など 			
実績 (任意)			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ■五所川原農林高校『DXハイスクール事業』講演 <ul style="list-style-type: none"> ・「DXが創る『圧倒的な差』とは ~AIが拓く君たちの未来」 ■青森商業高校『DXハイスクール事業』授業 <ul style="list-style-type: none"> ・「生成AI」体験授業 (1年生対象) / 「DXによる課題解決」体験授業 (2年生対象) ・課題研究授業 (3年生対象) ※今年度も継続実施予定 ■東北能開大青森校『専門課程授業「職業社会概論」』授業 <ul style="list-style-type: none"> ・「AI・DXとは何か」 (1年生3科全員) 		
URL	https://dragonagency.co.jp/topics/1765/ https://dragonagency.co.jp/topics/1774/ https://news.ntv.co.jp/n/rab/category/society/raca4c6e148be443729d589a677ea57fd5 https://newsdig.tbs.co.jp/articles/atv/1782216?display=1		
企業PR			
<p>Mission (会社の存在意義) に「テクノロジーで世の中を面白くする」を掲げ、大手一流企業のゴリゴリ開発案件もITによる青森の社会課題解決も全力で頑張っています。今、テレビで放映されているオカムラ食品工業の全編AIによるCMや新聞報道された弘前大学医学部附属病院との共同研究開発も弊社青森支店によるものです。更には、県内の高校・大学や臨床工学技士会・理学療法士会などの職能団体との連携による事業、そして県事業へ積極的に参加しています。</p> <p>本社は愛知県名古屋市で、2021年に青森県・青森市の誘致企業として青森市に青森支店を構えました。当時の知事や市長からの「ITでどんどん青森を活性化させてください」という熱い思いに応えるべく、青森支店の社員12名は全員地元採用で、青森のデスクから大都会の一部上場企業の開発プロジェクトを担い、更に、青森の社会課題に日々挑戦しています。</p> <p>弊社の講演や授業は、IT業界、AI、DX等の最新情報や課題、今後の展望、更に、時間を頂戴できれば、悩み事から課題を設定する方法 (As Is、To Be)、要件定義から学ぶ仮説の立て方、各方面への調整の仕方、プロジェクトの進め方、そして、プログラム開発・テスト・リリースまでSEの仕事を生徒の皆様にはわかりやすく体験していただき、DX人材の育成を目標としています。</p>			
担当者	未来創造部 部長 小山 洋永		
電話	017-721-1530	メール	hironaga.koyama@dragonagency.co.jp

(様式2) 講座メニュー

株式会社DRAGON AGENCY

授業メニュー名	AIを勉強の味方に！ ～聞くツールから使うツールへ～	
対象学年	全学年共通	
想定する受講人数	1クラスもしくは1学年単位 ※複数クラスがある場合は複数スタッフが同時対応	
想定受講者スキルレベル	ブラウザで検索ができるレベル	
授業時間（目安）	2コマ（100分）	
授業形式	対面講義＋ハンズオンによる体験	
授業内容	<p>1. AIって何？（データの学習～実際に利用されるまでの簡潔な概要）</p> <p>2. ここまできた最新AIサービス</p> <p>3. AIの活用方法（勉強・遊び・ビジネス）</p> <p>4. AIと付き合っていく際の注意事項</p> <p>【3. について】</p> <ul style="list-style-type: none">- 暗記カード(例：大学入試共通テストレベル、英検2級レベル等の頻出100語等生徒の役に立つもの)- 問題作成（同上）- 解説（同上）など、内容はできる限りご要望に沿うようにいたします。 <p>【4. について】</p> <ul style="list-style-type: none">- ハルシネーション：誤情報・回答・画像・解釈の事例紹介、正誤の判断のためにできること- ディープフェイク	
目標・到達スキル	AIを利用することへの抵抗を払拭し、AIを使ったら効率よくできないか？という身の回りのもの・ことに活用する視点を持つ。合わせてAIを利用する際の注意点を理解する。	
使用教材・ツール	ChatGPT	
学校側準備物	講師用	プロジェクターまたは電子黒板（説明用）
	生徒用	インターネットに接続できるパソコン、ChatGPTのアカウント
対応可能な地域	県内全域	
特記事項	青森市からの移動のため、遠方地域は午後開催を希望 内容は学校側のご要望によりカスタマイズ可能	

(様式2) 講座メニュー

株式会社DRAGON AGENCY

授業メニュー名	君も今日からAI作家 ～生成AIを使った新しいストーリー～	
対象学年	全学年共通	
想定する受講人数	1クラスもしくは1学年単位 ※複数クラス同時実施の場合は複数スタッフが同時対応	
想定受講者スキルレベル	キーボード、マウスの操作が可能なレベル	
授業時間 (目安)	1コマ (50分) または2コマ (100分)	
授業形式	対面講義+ハンズオンによる体験	
授業内容	<p>【開始～15分】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生成AIの概要 (成否を分けるプロンプトに関する説明) <p>【15分～35分】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生成AIを実際に使って、オリジナルの設定を追加した童話のストーリーを作ってみる <p><実践内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ベースとなる既存の物語をこちらから指定 (桃太郎など) 2. 班分けを行い、物語に追加するオリジナル設定の内容を話し合っ決めて (例: 主人公の性格、家庭環境、仲間、武器、展開、結末など) 3. 1、2の内容をプロンプトにまとめる 4. 作成したプロンプトをChatGPTに入力し、シミュレーションを実施 (例: 「鬼と仲良くなる結末にして」「アメリカとイランの紛争みたいにし、ホルムズ海峡も登場させて」等) 5. 元のあらすじと4の結果を比較 6. プロンプトをさらに変更し、返ってくる結果がどのように変化するかを観察 <p>【35分～終了】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各班の生成結果を発表 ・プロンプト次第で内容によって得られる結果が大きく異なることを確認 	
目標・到達スキル	<ul style="list-style-type: none"> ・ChatGPTの使い方を理解する ・生成AIのクリエイティブな活用方法を通して、プロンプトの内容の重要性を理解する 	
使用教材・ツール	ChatGPT	
学校側準備物	講師用	プロジェクターまたは電子黒板 (説明用)
	生徒用	インターネットに接続できるパソコン
対応可能な地域	県内全域	
特記事項	青森市からの移動のため、遠方地域は午後開催を希望 内容は学校側のご要望によりカスタマイズ可能	

(様式2) 講座メニュー

株式会社DRAGON AGENCY

授業メニュー名	今日から君はAI画家！ ～絵心不要 成否はプロンプト次第～	
対象学年	全学年共通	
想定する受講人数	1クラスもしくは1学年単位 ※複数クラス同時実施の場合は複数スタッフが同時対応	
想定受講者スキルレベル	ブラウザで検索ができるレベル	
授業時間 (目安)	1コマ (50分) または2コマ (100分)	
授業形式	対面講義+ハンズオンによる体験	
授業内容	<p>【開始～15分】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生成AIの概要 (プロンプト、画像生成について説明) <p>【15分～25分】</p> <ul style="list-style-type: none"> スクリーンの画像がChatGPTが生成したものか、人が作成した画像かを当てるクイズ ChatGPTによる画像が、どんなプロンプトを打ち込んでできたものかを当てるクイズ <p>【25分～40分】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちで画像生成を実践 (理想の部屋や家、ラーメン屋で箸を使ってラーメンをすすめる猫、校長先生になった犬、10年後の母校、30年後の青森市、50年後の自分など) <p>【40分～終了】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各班で生成した画像の生成結果を発表 AIと著作権について注意喚起 <p>※ 2コマ授業の場合は、生徒さんが作成した画像を使ってクイズを実施</p>	
目標・到達スキル	<ul style="list-style-type: none"> ChatGPTの使い方を理解する 生成AIのクリエイティブな活用方法を通して、プロンプトの内容の重要性を理解する 	
使用教材・ツール	ChatGPT	
学校側準備物	講師用	プロジェクターまたは電子黒板 (説明用)
	生徒用	インターネットに接続できるパソコン
対応可能な地域	県内全域	
特記事項	青森市からの移動のため、遠方地域は午後開催を希望 内容は学校側のご要望によりカスタマイズ可能	

(様式2) 講座メニュー

株式会社DRAGON AGENCY

授業メニュー名	生成AIは指示が命！ ～シンプルだけどハマるゲーム「ブロック崩し」制作～	
対象学年	全学年共通	
想定する受講人数	1クラスもしくは1学年単位 ※複数クラス同時実施の場合は複数スタッフが同時対応	
想定受講者スキルレベル	PCの操作ができること	
授業時間（目安）	2コマ（100分）	
授業形式	対面講義+ハンズオンによる体験	
授業内容	<ul style="list-style-type: none">・「ブロック」「ボール」「可動式跳ね返り板」のキーワードを生徒に伝える・班ごとに、ブロック崩しの動きを検討（設計）・設計内容をもとに、AIへの指示（プロンプト）を作成・入力・できたゲームが目指したものと同じか、違うか検証・修正（試行錯誤）<ul style="list-style-type: none">➡エラーが出たら、なぜ起きたか、どう修正するかを「AIに聞く」・完成後、各班で成果と工夫点を発表・時間があれば時間を競うコンペを実施	
目標・到達スキル	生成AIに対して、どのように指示をすれば自分の望むものが返ってくるか、また、その指示をどう作成するかを考えられるようになる	
使用教材・ツール	ChatGPT	
学校側準備物	講師用	プロジェクターまたは電子黒板（説明用）
	生徒用	インターネットに接続できるパソコン
対応可能な地域	県内全域	
特記事項	青森市からの移動のため、遠方地域は午後開催を希望 内容は学校側のご要望によりカスタマイズ可能	

(様式2) 講座メニュー

株式会社DRAGON AGENCY

授業メニュー名	生成AIで今日から君もエンジニア ~カンタンなツールを作ってみよう！	
対象学年	全学年共通	
想定する受講人数	1クラスもしくは1学年単位 ※複数クラス同時実施の場合は複数スタッフが同時対応	
想定受講者スキルレベル	ブラウザで検索ができるレベル	
授業時間 (目安)	2コマ (100分) または3コマ (150分)	
授業形式	対面講義+ハンズオンによる体験	
授業内容	<p>【1コマ目】 1. AIって何？ (データの学習~実際に利用されるまでの簡潔な概要) 2. ここまできた最新AIサービス 3. プロはこう使う! ~生成AIの業務での活用シーン、これまでの方法との比較~</p> <p>【2コマ目】 4. ブラウザで動く簡単なツールを作ってみる! 【例】 ・電卓 ・文字数カウンター ・おみくじ ・血液型、星座、趣味、食べ物の好み、年齢、職業をもとにした相性診断ツールなど ・自分たちが考えたもの ※生成後に発表</p> <p>【3コマ目】 ※実施する場合 ・学校のホームページを生成AIが作成するとどうなる? (まずはトップページ) ※「〇〇高校のHPを最新のデザインで作って」の指示だけでどんなものができるか、そこから更に変更するにはを体験 ※チームの場合は人数分のページ生成 ※2コマ目・3コマ目の内容は入れ替え、新たなものに変更可能</p>	
目標・到達スキル	AIによって誰でも簡単なプログラムを作ることができることを実感する。それにより、ITエンジニアという職業に対する関心も高めてもらう。	
使用教材・ツール	ChatGPT 他	
学校側準備物	講師用	プロジェクターまたは電子黒板 (説明用)
	生徒用	インターネットに接続できるパソコン
対応可能な地域	県内全域	
特記事項	青森市からの移動のため、遠方地域は午後開催を希望 内容は学校側のご要望によりカスタマイズ可能	

(様式1) 企業プロフィールシート

株式会社ビーコース

会社概要			
設立年	2016年		
従業員数	11名		
本社所在地	青森県十和田市西三番町1-24		
支店・営業所等			
公式サイト	https://be-cause.co.jp/		
事業内容			
企業ブランド構築支援、組織課題・DX支援、WEB制作、システム開発、デジタルマーケティング、飲食店経営、まちづくり支援			
実績（任意）			
内容	学校関連 ・令和6～令和7年度 三本木農業恵拓高校 総合的探求の時間 伴走支援（令和8年度継続） ・令和6年度 県内高校と連携したIT人材の定着推進業務（自由提案分）十和田工業にて実施 IT関連 ・弊社代表の村岡 将利が「あおもりIT活用サポートセンター」設立時から理事を行っている。 ・各種SNSセミナー		
URL			
企業PR			
当社は約10年にわたり十和田市を拠点に、WEB・システム開発とITを活用した地域課題解決に取り組んできました。また、イベント運営や講話等を通じた若者のキャリア支援も行ってきました。 本授業ではプログラミング等の専門技術というよりも、将来どの業種でも役立つ「既存ITサービスの活用法」を重視します。デジタルの敷居を大きく下げ、高校生が「ITは自分の武器になる」と実感できる実践的な授業を提供し、IT業界へ進むきっかけを提供します。			
担当者連絡先			
担当者	佐藤 佑志		
電話	080-1677-5990	メール	yushi.sato@be-cause.co.jp

(様式2) 講座メニュー

株式会社ビーコース

授業メニュー名	社会で生きるDX化から見る課題解決の考え方	
対象学年	高校1～3年生	
想定する受講人数	何名でも可能	
想定受講者スキルレベル	特になし	
授業時間 (目安)	1コマ (50分)	
授業形式	講義	
授業内容	<p>1. DXという言葉の定義、ゴール DXとは何か？単なるIT化ではなく、デジタル技術を活用して社会や生活をより良く変革し、新たな価値を生み出すという本来の目的やゴールについて解説します。</p> <p>2. DXのゴールに至るまでの過程と考え方 デジタル化からDXへ進むステップを図解します。正解がない時代だからこそ、身近な課題を見つけ、ITを活用してどう解決していくかという柔軟な思考法を学びます。</p> <p>3. 県内のDX・IT化事例紹介 私たちの住む県内で実際に進んでいるDXの取り組みを紹介します。身近な企業や自治体が、デジタル技術でどう地域課題を解決しているか、具体例から学びます。</p> <p>4. 学生生活や社会から見るDX・ITの考え方 部活や勉強など身近な課題を、デジタル技術でどう解決するか考えます。変化の激しい時代を生き抜くために、社会に出ても役立つ柔軟なIT活用と思考法を学びます。</p>	
目標・到達スキル	学生生活や社会で自分がDX化・デジタル化に主体的に取り組めるマインドを身につける。社会においては非IT企業でもDX化・デジタル化の担当になれるマインドを身につける。	
使用教材・ツール	スライド資料、PC	
学校側準備物	講師用	プロジェクターまたはモニター (任意)、講師用PC接続環境
	生徒用	メモ、筆記用具
対応可能な地域	全県	
特記事項		

(様式2) 講座メニュー

株式会社ビーコース

授業メニュー名	実践的な生成AI活用体験「AIが発達した未来の働き方と学び方、活用の注意点」	
対象学年	高校1～3年生	
想定する受講人数	1～2クラス程度	
想定受講者スキルレベル	PC基本操作ができる生徒（ブラウザ操作経験者歓迎）、生成AI未経験者向け	
授業時間（目安）	2コマ（50分×2コマ）（主に体験時間を減らし、1コマでの実施も可能）	
授業形式	講義、簡単な実践	
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 【講義】生成AIって何？なぜ騒がれているの？ 従来のAIと現代の生成AIの違いを解説。世界中が利用する理由や社会の変化を知り、私たちが今、AI活用においてどの立ち位置を把握する導入講義です。 【体験】実践的な生成AI生成体験 初歩的な体験として「生成AIとの対話」、実用的な活用として「学校のテスト結果の分析」を自分で操作して体験します。（「Gemini」または「ChatGPT」を活用予定） 【講義】生成AIで日々の生活や仕事、働き方はどう変わるのか。 「生活・なくなる仕事・生まれる仕事」のリアルに迫ります。人間にしかできないスキルとAI活用力の両輪が求められる現実を解説し、自身の能力を拡張する未来の働き方を学びます。 【講義】AI時代をどう生き抜くかと注意点。デジタル社会で重要視される課題のを見つけ方 著作権侵害や嘘の情報、思考力低下などのリスクを解説。その上で、進化していくAIをどのように学ぶと良いか、活用ポイントを伝え、正しく使いこなして生き抜くためのマインドを伝えます。 	
目標・到達スキル	生成AIについての先を見据えた有効な活用方法、活用の注意点が身につく	
使用教材・ツール	スライド資料、PC	
学校側準備物	講師用	プロジェクターまたはモニター（任意）、講師用PC接続環境
	生徒用	<ul style="list-style-type: none"> ・PCまたはタブレット（ブラウザ対応）、メモ、筆記用具 ・Gemini活用の場合：Geminiの使用が許可されているGoogle Workspace for Educationアカウント。 ・ChatGPTを活用の場合：保護者からChatGPTの使用許可を承諾いただいている状態。
対応可能な地域	全県	
特記事項		

(様式2) 講座メニュー

株式会社ビーコース

授業メニュー名	業種を問わず活躍できる！クラウドツールを活用してデジタル化に触れよう！	
対象学年	高校1～3年生	
想定する受講人数	1～2クラス程度	
想定受講者スキルレベル	PC基本操作ができる生徒（ブラウザ操作経験者歓迎）	
授業時間（目安）	1コマ（50分）	
授業形式	講義、簡単な実践	
授業内容	<p>1. 授業目的の共有：なぜこの授業が必要なのか 県内企業のIT化の背景、ITと言ってもいきなりプログラミング等ではなく、まずはデジタルツールに触れる体験の必要性、本授業の目的を共有します。</p> <p>2. 実践：実際に触れてみる 世界的に使われるクラウドツール「Notion」を操作します。ページ作成や学校生活のToDoリスト作成を体験し、身近な課題をデジタルで効率化する便利さを自ら手を動かして体感します。</p> <p>3. まとめ：体験の活かし方とデジタルの武器化 今回の体験の活かし方や、他の便利ツールを紹介します。デジタルスキルが県内のあらゆる職場で強力な武器になることを伝え、自ら課題解決できる人材への第一歩を後押しします。</p>	
目標・到達スキル	クラウドツールを活用したデジタル化の基礎知識の理解、Notionの基礎的な操作方法	
使用教材・ツール	スライド資料、PC	
学校側準備物	講師用	プロジェクターまたはモニター（任意）、講師用PC接続環境
	生徒用	・PCまたはタブレット（ブラウザ対応）、メモ、筆記用具 ・各自のGoogle Workspace for Educationアカウント（Notionへのログインで使用）
対応可能な地域	全県	
特記事項		


(様式2) 講座メニュー

株式会社ビーコース

授業メニュー名	生成AIとクラウドツールを活用した自己紹介スライドまたはホームページ作成	
対象学年	高校1～3年生	
想定する受講人数	1～2クラス程度	
想定受講者スキルレベル	PC基本操作ができる生徒（ブラウザ操作経験者歓迎）、生成AIの概要知識がある生徒	
授業時間（目安）	3コマ（50分×3コマ）	
授業形式	簡単な実践	
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生成AIを活用した自己分析 ある程度こちらで用意した項目に沿って、自己紹介を作成。回答に困る項目は生成AI（「Gemini」または「ChatGPT」を想定）に手伝ってもらい、導き出す。その他必要な項目をAIと検討する。 2. 生成AIを活用してスライド見出しと台本生成 1で作成した内容を生成AIで、スライド用の見出しと台本に落とし込んでもらう。 3. クラウドツールや生成AIでスライド化。または、コードを打たずにホームページ化。 2で作成したものを、クラウドツール（「Canva」を想定）でスライドに手作業で落とし込む。クラウドツールとは別で、生成AI（「Gemini」を想定）でも台本をスライド化。または生成AIと対話でホームページ化。 4. 生成AIで画像生成 自分の似顔絵や好みの画像を生成しスライドに入れる。 	
目標・到達スキル	生成AIを活用した対話、文章生成、画像生成の基礎的な操作ができる。 就職に必要な自己紹介テンプレを完成。	
使用教材・ツール	スライド資料、PC	
学校側準備物	講師用	プロジェクターまたはモニター（任意）、講師用PC接続環境
	生徒用	<ul style="list-style-type: none"> ・ PCまたはタブレット（ブラウザ対応） ・ Geminiの使用が許可されているGoogle Workspace for Educationアカウント。 ・ ChatGPTを活用の場合は保護者から使用許可を承諾いただいている状態。 ・ 各自のGoogle Workspace for Educationアカウント（クラウドツールのログインで使用）
対応可能な地域	全県	
特記事項		

(様式1) 企業プロフィールシート

株式会社ビジネスサービス

会社概要			
設立年	1975年		
従業員数	319名		
本社所在地	青森県青森市新町2丁目6-29		
支店・営業所等	青森支店、弘前支店、八戸支店、十和田営業所、三沢営業所		
公式サイト	https://www.kbs-web.com/		
事業内容			
<ul style="list-style-type: none">・生成AIやセキュリティ、業務改善、クラウドサービスなど企業や官公庁、学校向けの業務効率化を支援するICTソリューションの提案・導入・Webサイト／システム開発実績を活かしたソリューションを提供・展示会では生成AIを中心にソリューションの紹介や、セミナーも実施			
実績（任意）			
内容	<ul style="list-style-type: none">・青森市へ生成AIチャットボット、自治体向け生成AIの導入実績・弘前市へ生成AIチャットボット導入実績・小学生から高校生を対象に職業講話や情報モラル講話を実施、昨年度は「あおもりキャリア教育応援企業」として表彰されました。		
URL	https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/soumu/gyokei/aichatbot.html		
企業PR			
<p>地域に根ざしたICT企業として、生成AIをはじめとする最新のデジタル技術を活用し、企業や行政のDXを支えてきました。Web制作やシステム開発、通信サービスなど幅広い事業で培った実践的な知識を基に、デジタル技術に親しむきっかけづくりや、その活用を見据えた学びを支援したいと考えています。現場で培われたノウハウをもとに、高校生がこれからの社会で役立つ視点を持ち、自分の将来を前向きに描けるようサポートいたします。</p>			
担当者連絡先			
担当者	附田 麻衣		
電話	017-773-1315	メール	tsukuda-m@kbs-web.com

(様式2) 講座メニュー

株式会社ビジネスサービス

授業メニュー名	JavaScriptで学ぶ初めての図形描画	
対象学年	高校1～2年生	
想定する受講人数	1クラス程度(30～40人程度)	
想定受講者スキルレベル	PC基本操作ができる。VBScript等の言語授業経験あり。(ブラウザ操作経験者歓迎)	
授業時間(目安)	2コマ(100分)	
授業形式	対面講義+簡単なハンズオン	
授業内容	<ol style="list-style-type: none">JavaScriptとは Webサイトに「動き」を与えるJavaScriptについて仕組みと具体的な利用シーンについて説明します。JavaScript基礎値知識 プログラミングの基本構文をマスターします。実習に必要なソースの記述方法について解説します。あわせて、実際に利用されているJavaScriptを紹介します。実習 図形描画プログラムの制作を通して、JavaScriptのプログラミングを体感します。	
目標・到達スキル	JavaScriptの基礎を理解し簡単なプログラミングができる。	
使用教材・ツール	プレゼン資料、PC(ブラウザ接続、エディタ(TeraPad))	
学校側準備物	講師用	プロジェクター、講師用PC接続環境、HDMIケーブル、電源タップ
	生徒用	PC、Wi-Fi環境、筆記用具
対応可能な地域	東青地域	
特記事項	平日午後の実施を希望	

(様式2) 講座メニュー

株式会社ビジネスサービス

授業メニュー名	AIで作るWebアプリケーション（バイブコーディング）	
対象学年	高校1～2年生	
想定する受講人数	1クラス程度（30～40人程度）	
想定受講者スキルレベル	PC基本操作ができる生徒（ブラウザ操作経験者歓迎）、生成AI未経験者向け	
授業時間（目安）	2コマ（100分）	
授業形式	対面講義＋簡単なハンズオン	
授業内容	<ol style="list-style-type: none">1. バイブコーディングとは 開発現場で急速に普及している対話型プログラミング手法の仕組みと、ツール活用術を解説します。専門知識を「バイブ（直感的な意図）」で言語化し、AIと共に形にする新しいモノづくりの形を学びます。2. 実習 バイブコーディングで、JavaScriptとHTMLと利用した簡単なアプリを作成します。自分の「作りたい」という意図をAIに伝え、瞬時に形になるスピード感とプログラミングを体感します。3. バイブコーディングの実態と利用シーン 生成AIを使う上でのモラルと今後想定されているリスクについて説明します。	
目標・到達スキル	バイブコーディングを理解し簡単なプログラム作成に利用できる。	
使用教材・ツール	プレゼン資料、PC（ブラウザ接続、エディタ(TeraPad)）	
学校側準備物	講師用	プロジェクター、講師用PC接続環境、HDMIケーブル、電源タップ
	生徒用	PC、Wi-Fi環境、筆記用具
対応可能な地域	東青地域	
特記事項	平日午後の実施を希望	

(様式2) 講座メニュー

株式会社ビジネスサービス

授業メニュー名	生成AIとデジタル活用の基礎講座	
対象学年	全学年	
想定する受講人数	1クラス程度(30~40人程度)	
想定受講者スキルレベル	PC基本操作ができる生徒、生成AI初心者向け	
授業時間(目安)	1コマ(50分)	
授業形式	対面講義+ミニワーク	
授業内容	<p>① 生成AIとは?(基礎解説) 生成AIの仕組み、AIの種類紹介、AIが「得意なこと」「苦手なこと」</p> <p>② 生成AIの使い方(実例) プロンプトの基本、便利だけど気をつけるべき場面</p> <p>③ 生成AIを使う際の注意点(情報リテラシー) 著作権、肖像権、情報漏洩の落とし穴、フェイク生成への注意、出典の確認方法</p> <p>④ デジタルツール活用ミニワーク(10~15分) 学校のPC/タブレットを使いながら 例)「文化祭のポスターをAIに作らせる構成を考える」、「商品アイデアの説明文をAIと一緒に作る」</p>	
目標・到達スキル	生成AIを正しく・効果的に使う基本が理解できる、生成AIの注意点や情報リテラシーを身に付ける	
使用教材・ツール	プレゼン資料、PCもしくはタブレット(ブラウザ接続)、AIサービス(無料で利用できるものから選定いたします)	
学校側準備物	講師用	プロジェクター、講師用PC接続環境、HDMIケーブル、電源タップ
	生徒用	PCもしくはタブレット、Wi-Fi環境、AIサービス(無料で利用できるものから選定いたします)
対応可能な地域	青森県内全域	
特記事項	平日の実施を希望いたします	

(様式2) 講座メニュー

株式会社ビジネスサービス

授業メニュー名	IT企業の仕事とDX人材の働き方を知ろう	
対象学年	全学年	
想定する受講人数	1クラス程度(30~40人程度)	
想定受講者スキルレベル	PC基本操作ができる生徒、生成AI初心者向け	
授業時間(目安)	1コマ(50分)	
授業形式	対面講義+ミニワーク	
授業内容	<p>① IT企業とは?(基礎理解) IT分野について(システム開発、ソフトウェア、ハードウェア、クラウド etc...)</p> <p>② IT企業の仕事内容を知る システムエンジニア、webデザイナー、営業の仕事内容</p> <p>③ DXとは? DXの身近な例、DX人材に求められる力</p> <p>④ あなたらなDXで何を変革する? ミニワーク(10~15分) 学校、部活動、イベントなど困っていることをDX化で解決してみよう</p>	
目標・到達スキル	IT業界の幅広い分野・役割を知り、自分が興味を持てる職種を見つけるきっかけをつくる、DXが社会でなぜ重要なのか理解できる	
使用教材・ツール	プレゼン資料、PCもしくはタブレット(ブラウザ接続)、AIサービス(無料で利用できるものから選定いたします)	
学校側準備物	講師用	プロジェクター、講師用PC接続環境、HDMIケーブル、電源タップ
	生徒用	PCもしくはタブレット、Wi-Fi環境、AIサービス(無料で利用できるものから選定いたします)
対応可能な地域	青森県内全域	
特記事項	平日の実施を希望いたします	